

No.	事業名称等	事業実施年度	評価実施年度	交付金種別
1	三浦半島魅力深化プロジェクト事業	令和3年度	令和4年度	地方創生推進交付金

1 事業計画概要

(1) 三浦半島魅力深化プロジェクト事業

令和2年度～令和4年度に地方創生交付金を活用して、三浦半島魅力深化プロジェクト事業（三浦半島4市1町広域連携による事業）を行うもの。

横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市及び葉山町で構成される三浦半島地域は、県内で最も早く人口減少社会と超高齢社会が到来した地域である一方で、都心への通勤が可能な40～60km圏内にありながら、豊かな自然や歴史と文化に育まれた多彩な資源を有しており、「都心から1時間のマリンリゾート」として他の地域にはないポテンシャルを有している地域である。

平成28年度から「三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業」として、観光産業の活性化を通じて、地域経済の活性化と人口減少等への対応を図ってきたが、観光面では一定の成果が出始めているものの、人口減少には歯止めがかかっていない状況である。

三浦半島魅力最大化プロジェクトは、元々「観光の魅力」と「半島で暮らす魅力」の2つを大きな柱に据えており、これまでの取組で、観光については推進していく体制も整いはじめたことから、次のステップとして、「半島で暮らす魅力」を構成する「働く魅力」と「住む魅力」の向上に取り組み、生産年齢の転出の抑制及び転入者の獲得を目指す。

2 三浦市の構成事業令和3年度実績（小事業ごとの決算額、主な取組と工夫、主な成果）

	小事業名	決算額 (千円)	主な取組と工夫	主な成果
第1分科会	1 海の駅「うらり」セールスプロモーション事業	2,724	1：みうら・みさき海の駅「うらり」セールスプロモーション事業 ・新型コロナウイルス感染拡大以降、大規模な誘客イベントが実施できていない。 ・この状況を踏まえ、ウィズコロナの誘客手法として、令和2年度に開発したうらりマルシェやさい館販売商品を使用したスイーツ（キャベッシュ、キャロッシュ、大根パフェ）を誘客コンテンツとして活用し、インフルエンサーと連携した市外向けプロモーションを実施した。 ・うらりを訪れる市民が少ないという現状を踏まえ、市民がうらりに親しみをもつきっかけづくりとして、（一社）みうら学・海洋教育研究所と連携し、市内小中学生が海に親しむイベント実施の支援を行った。 【参加学校】 三崎小学校、南下浦小学校、名向小学校の全学年 【主なイベント等】 京急油壺マリンパーク見学、J's フィッシングでの釣り体験、地引網体験、遊漁船乗船体験等	市外向けプロモーションイベントの実施：0回 （一社）みうら学・海洋教育研究所との連携事業実施：1件
	2 三崎漁港「グローバル」デザイン戦略実践事業	1,508	・アフターコロナのインバウンド需要を見据え、三崎漁港に水揚げされるキンメダイが新たにかながわブランドに登録されたこと、沿岸卸売市場が新たに高度衛生管理型市場となったことの二つの要因が新たな付加価値として魚価に反映されるよう、また、三崎産水産物が広く認知されるようキンメダイを中心としたパンフレットを作成した。	三崎産水産物ブランド推進パンフレット作成：1件 中小企業海外輸出研修会の開催：0回

第2分科会	移住定住促進事業	4,867	・トライアルステイについては、民間事業者主体による事業としており、市はホームページでの周知や相談対応など引き続き事業者と連携・協力して取り組んだ。 ・三浦市の重要な資産である三崎漁港について、まちの魅力を高め、関係人口の増加を図るため、近接する三崎中学校跡地等を含む三崎漁港グランドデザインの策定に取り組んだ。 ・学識経験者、市内関係団体、関係行政機関等で構成するグランドデザイン策定検討会による議論を経て、三崎漁港における課題とゾーニングを整理した三崎漁港グランドデザインを策定した。 ・神奈川県主催の移住セミナー（オンライン）に2回（うち1回は市単独）参加した。 ・令和2年度のセミナー参加者のアンケートで市内の不動産について聞きたいという意見が多かったため、セミナーのゲストに不動産事業者を招いて説明をしてもらい、好評を得た。 ・「三浦移住学」と題した移住講座を、令和4年2月12日、26日、3月12日、26日の全4回で開催し、15人の参加があった。 ・移住相談窓口及び移住セミナーにおける移住相談に対応した。（相談件数161件） ・令和3年3月に発行した移住定住冊子「MIURA」をふるさと回帰支援センター（東京都千代田区）や市内各施設等に配架する等、本市への移住及び定住をPRした。	三崎漁港グランドデザインの成果に基づく事業の検討や実施：0件 移住相談窓口での相談件数：161件
	三浦半島魅力深化プロジェクト事業	9,099	うち、「地方創生推進交付金」4,549千円	

3 K P I の分析									
交付金KPI① <※第 1 分科会>					交付金KPI② <※第 1 分科会>				
KPI 名称	鎌倉市を除く 3 市 1 町の観光客消費額		分析	<三浦半島4市1町> 令和 3 年の観光客消費額は、県において未公表のため、半島全体での観光客消費額は未確定である。 <三浦市> 三浦市の令和 2 年の観光客消費額は約71億5, 400万円であり、令和 3 年の目標を達成した。 しかし、市内イベントが軒並み中止になり、例年70万人に上るイベント客数は10万人にどまったこと等より、消費額は令和元年の水準には戻っていない。	KPI 名称	三浦半島地域における各種イベント参加人数		分析	<三浦半島4市1町> 各市町のイベントは、ウィズコロナを踏まえ、再開されるものが増えたが、来客数の多い大型イベント等は引き続き中止となるものが多かった。 横須賀市の「街なかミュージック支援事業」のオンライン配信の視聴数が約26万回あり、目標を達成した。 <三浦市> 予定していたイベントは新型コロナウイルス感染拡大の影響で全て中止となった。
目標 (R3)	28, 101	百万円		目標 (R3)	152, 000	人			
実績 (半島)	未確定	百万円		実績 (半島)	288, 287	人			
実績 (市)	7, 154	百万円		実績 (市)	0	人			
交付金KPI③ <※第 2 分科会>					交付金KPI④<※第2分科会>				
KPI 名称	三浦半島 4 市 1 町の生産年齢人口の社会増減数		分析	<三浦半島4市1町> 実績の内訳は次のとおりであり、目標を達成した。 三浦市 : △66人 横須賀市 : △868人 鎌倉市 : 723人 逗子市 : 175人 葉山町 : △8人 <三浦市> 三浦市は平成30年△296人、令和元年△307、令和 2 年△127人、令和 3 年△66人と推移しており、令和 3 年は、生産年齢人口の社会減が抑制されている。	KPI 名称	県民ニーズ調査における「現在のところに住み続けたい」と思う人の三浦半島地域の割合		分析	<三浦半島4市1町> 令和 3 年の実績値は 59.1%であり、令和 2 年 71.9%より12.8ポイントと大幅な減少となった。 令和 2 年度に「特に考えていない」と回答した方の割合は9.4%であったが、令和 3 年度においては20.5%と 11.1ポイント増加となっている。
目標 (R3)	△ 832	人		目標 (R3)	69. 0	%			
実績 (半島)	△ 44	人		実績 (半島)	59. 1	%			
実績 (市)	△ 66	人		実績 (市)	－	%			

4 三浦市の構成事業の課題と今後の改善策・手法

事業名		課題と今後の改善策・手法
第1分科会	1 海の駅“うらり”セルスプロモーション事業	・海の駅“うらり”を中心とした新規イベントの開催、開発商品や地場製品のPR等により、新たな来遊客の取り込みと集客数の増加を図る。
	2 三崎漁港グローバルファンディング戦略実践事業	・東南アジア方面への輸出に対する気運の醸成を図るため、日本貿易振興機構（ジェトロ）の協力を仰ぎ、輸出実績のない市内の中小企業を対象とした研修会を開催する。 ・また、事業開始から現在までに得られた知見等を参考にし、輸出実績のない中小企業が新規に海外への輸出に進出できるように、三崎産水産物輸出促進マニュアルを作成する。
第2分科会	3 移住定住促進事業	・トライアルステイについては、引き続き実施主体となる民間事業者と連携・協力しながら取り組んでいく。 ・令和3年度に策定した三崎漁港グランドデザインに基づき、令和4年度はアクションプランの具体化などに関する進行管理とブラッシュアップを行っていく。 ・神奈川県主催の移住セミナーに引き続き参加する。セミナー等参加の際には、三浦市で開業した方や不動産事業者等にゲストとして参加を依頼し、移住定住のPRを民間事業者や移住者と連携して実施する。 ・セミナー等の参加者へのアンケート調査結果などにより移住希望者のニーズを把握し、次回のセミナー等のほか、その他の移住定住施策に生かす。 ・デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生テレワークタイプ）を活用して民間事業者が行うサテライトオフィス整備の支援については、令和3年度に申請を行ったが交付対象とならなかった。引き続き国の動向を注視し、民間事業者の支援に取り組む。 ・令和3年度に新たに開催した移住講座を令和4年度も引き続き開催する。 ・参加者から移住があった移住講座のようなKPI達成に向けた新たな効果的な取組について、令和3年度にご意見をいただいた移住者へのインセンティブの付与をはじめ、他の自治体の例を参考に検討する。

5 三浦市の評価					
(1) 内部評価			(2) 外部評価		
事業 の 評価	3 地方創 生に相当 程度効果 があった	評価の 理由	事業 の 評価	3 地方創 生に相当 程度効果 があった	主 な 意 見 ・ 主な意見なし
		今後 の方 針			
		KPI①は、半島での数値は未確定。三浦市の総合計画で定めた目標は達成している。 KPI②は、半島の目標は達成しているが、本市は寄与できていない。 KPI③は、半島の目標が達成できており、三浦市の減少幅も抑制されている。 KPI④は、半島の目標は達成できていない。 KPI②④は課題であるが、③は達成しており、概ね成果が得られた。			
		事業の継続（計画通りの継続） ※課題への取組、改善は引き続き行っていく。			